不登校児童・生徒支援事例報告書

不登校生徒支援室（サポートルーム）について

不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、中学２年生であり、小学生の時から登校渋りが始まった。不登校の要因は、保護者からの聞き取りでは、当該生徒は学校の雰囲気や大人数で生活する環境に適応するのが苦手であり、また、中学校に入り学習面でついていくのが難しい状況であった。

具体的な取組

組織力の向上

担任や不登校担当教員からの情報をもとに、ケース会議を実施した。ケース会議では、担任、保護者、本人による三者面談の内容や巡回相談心理士による生徒観察の様子等の情報を収集・分析・共有し、チーム支援の必要性と方向性を確認した。

個々の不登校支援

別室での対応としても学習だけでなく過ごしやすい環境作りと短時間登校を意識して、学校へ登校するハードルを上げないように心がけた。

校内体制の強化

支援のための校内委員会を週に１度開催し、支援シートを基に生徒の状況や変化を共有し、生徒との関わり方において、不登校担当教員や学年担当教諭、養護教諭等が共通した対応ができるよう調整した。

加配教員連絡協議会及び都不登校対策担当主催研究会の参加

各校の不登校支援の取り組みを共有し、様々な課題を明確にして、自校に持ち帰ることにより、自校でのサポートルームでの支援や環境整備に役立つ事ができた。

成果

教員との信頼関係を築ことができ、学習・進路の不安を相談できた。登校意識が高まり、自分のペースで学習を行うことができた。また、友人関係のつながりを保つことができ、学校行事に参加・見学することができた。

課題

（1）学習意識の向上
（2）学力の向上
（3）生徒への精神的配慮
（4）サポートルームの拡充

不登校児童・生徒支援事例報告書

不登校加配教員の取り組みについて

不登校児童・生徒の状況

小学校の時から保健室登校が続き、５月に SSR(スモールステップルーム)が開設されて以降、SSR を中心に学校生活を続けている。運動会や宿泊行事にも参加することができ、いくつかの授業ではクラスでの全体指導に参加できるようになった。精神的に不安定な日もあるため、様々な視点からの適切な支援を模索しながら、今後も対応にあたる必要がある。

具体的な取組

不登校生徒に関する情報共有の強化

校内に不登校対応の特別委員会を設置し、週１回の情報交換を行うとともに、生徒のアセスメントを基に、個別の対応や外部機関との連携について協議を行った。また、共有した情報をまとめ、校務パソコン内の掲示版に添付し、特別委員会以外の教員への情報共有を行った。

学習課題の提示・AI ドリルの活用

SSR を利用してのオンライン授業や、その他の自主学習の取組を進め、学びの場の提供と学びの継続を促している。学習面に不安を抱える生徒には、AI ドリルを活用した自主学習を提案し、小学校の内容から学習の振り返りができる環境を整えている。

個別対応ができる生徒の居場所つくり

SSR を新設し、クラスでの生活に不安を抱える生徒や、様々な要因から一時的に授業参加が難しい生徒に対して、学校生活との繋がりを継続するための居場所としての活用が進められている。

スクールカウンセラーとの連携

個別対応が必要な生徒に対して、SC との面談を促し、多面的なアセスメントの機会としている。また、不登校対応の特別委員会に参加できるよう時間割を調整し、綿密な情報共有を行っている。長期休業前には SC による講話を企画し、関わりやすい環境を醸成している。

成果

不登校対応の特別委員会での情報共有を綿密したことで、学年の垣根を越えて、個々の生徒に対するアセスメントを考察することができている。また、新設した SSR も順調に運用され、多くの利用者の居場所となることができているため、一定の効果がある。

課題

SSR の活用が進んだことで利用者が増え、教室内の規律を整えつつ、個別の課題に寄り添う難しさを感じることが多くなっている。

個に応じた不登校生徒支援について

不登校児童・生徒の状況

全校生徒に対して、不登校生徒の割合は 5.4%である。生徒一人一人の状況は違っており、登校復帰を目的とした個別の対応を推進している。「別室登校及び別室支援員による授業」「授業取り出しでオンライン授業に参加」「ＳＣと面談のみ」など個別の課題への対応が多様化している。

具体的な取組

魅力ある学校を目指して

・日本や世界で活躍する人物の講演会を通して、「自分自身を大切にすること」や「どんな状況でも未来を想像して夢をもって生活すること」の大切さについて学んだ。

・オンラインや体育館２階から見学するなど個に応じた参加形態を設定した。

東京都不登校対応モデル授業の推進

・互いの関わりを大切にすることや、居心地の良い集団の在り方を意識した授業研究を行い、10 月に多くの先生方が来校して研究協議会や報告会を実施した。

不登校生徒の居場所づくり

・「校内教育相談室」を整備し、個別対応ができるような居場所作りを推進した。

・「校内授業支援室」を整備し、校内別室支援員を２名配置し、遅れがちな学習内容について、支援を進める体制を構築した。

支援会議の企画、運営

・ＳＣや心の相談員、養護教員との連絡会を週１回程度行い、不登校生徒の別室登校や支援について検討している。

・不登校支援委員会にて情報共有を図り、校内支援委員会で個々の事情に考慮した対応策を担任や学年等に提案し、不登校の未然防止に努めている。

成果

個に応じたきめ細かな支援や校内支援室の整備を推進した結果、不登校出現率については、令和４年度は 6.05%だったところ令和５年度は 5.43%となり、0.62%の減少が見られた。また、不登校生徒の復帰率については、令和４年度は 28.5%だったところ、令和５年度は 30%となり、1.5%の上昇が見られた。

課題

不登校生徒の状況が多様化し、復帰を目指すことの他に、別室でも同じ時間で活動できる環境を整えたが、まだまだ人員や教室が足りないことが課題である。また、個別の学習課題も複雑化している。